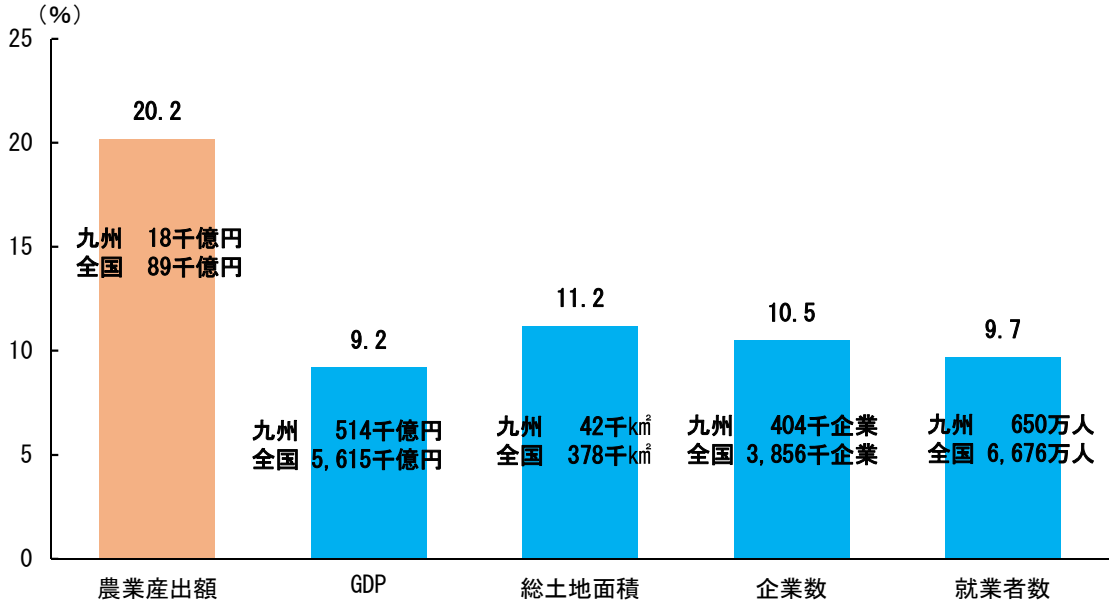
構造 － 九州農業の特徴 －

【九州は日本の食料基地】

農業が盛んな九州は日本の食料基地となっており、「全国の１割経済」といわれている中、農業産出額では全国の２割を占めています。

また、県民経済計算（県民総生産）の産業別割合から計算した特化係数をみると、九州は全国の中でも農業のウエイトが大きい地域であることが分かります。

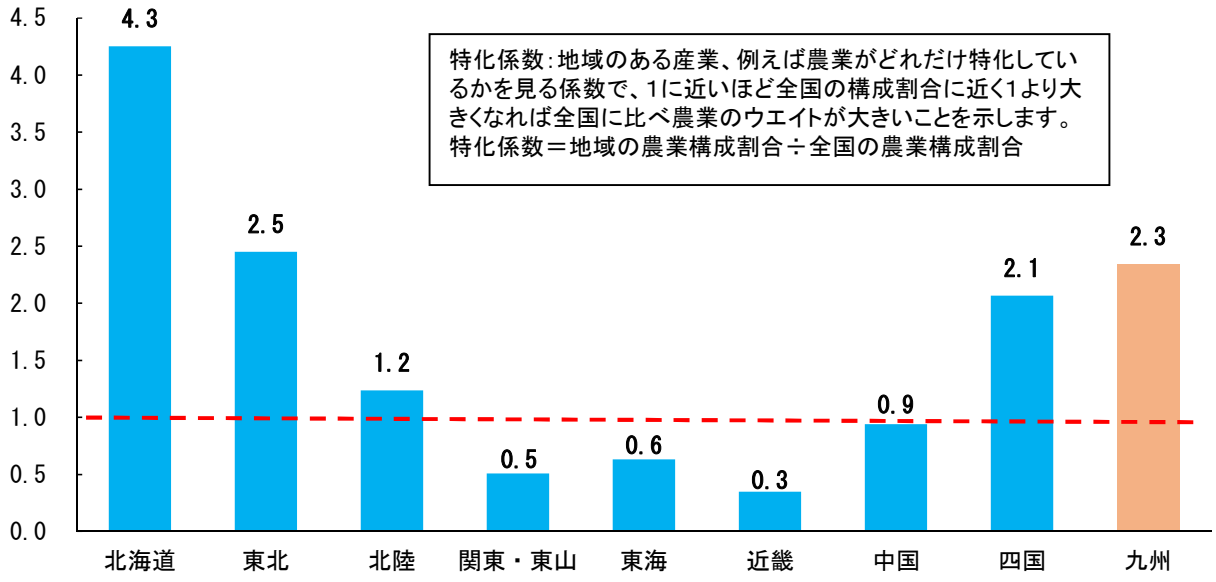
全国に占める九州の割合



資料：農林水産省「令和元年生産農業所得統計」、内閣府「平成29年県民経済計算」
国土地理院「令和２年都道府県市町村別面積調」、総務省「平成28年経済センサス活動調査」
総務省統計局「令和２年労働力調査」

注：農業産出額とは、農業生産活動による最終生産物の総産出額であり、品目別の生産量に農家庭先価格を乗じて得た額を合計したもの（売上総額のイメージ）。
農業産出額の全国は都道府県計、GDPの全国は県民総生産の都道府県計。

県民経済計算からみた農業の特化係数



資料：内閣府「平成29年県民経済計算」

【野菜、畜産などの全国上位を占める】

部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、畜産や工芸農作物では約３割を占め、野菜、果実など様々な品目が全国順位で上位となっています。

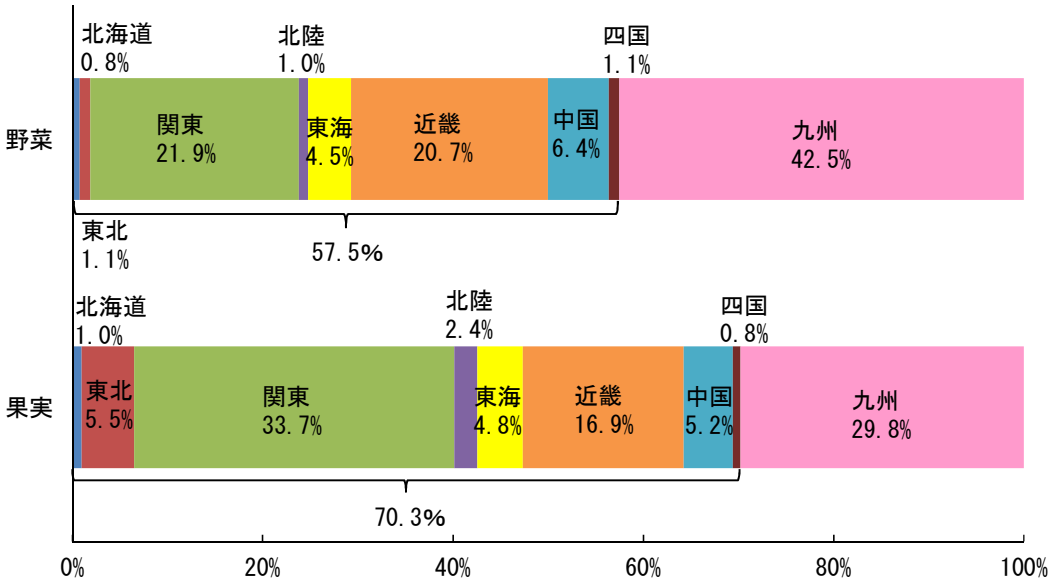
また、市場出荷された九州産の青果物は、その多くが九州以外の地域へ出荷されており、野菜は九州以外が57.5％で、関東が21.9％、近畿が20.7％となり、果実は九州以外が70.3％で、関東が33.7％となっています。

部門別農業産出額の全国に占める九州の割合および主要品目別の全国上位県

	九州の割合	九州の割合		主産地		
		品目	全国シェア	県名	全国シェア	全国順位
	%		%		%	位
野菜	19.6	ピーマン	38.8	宮崎	22.0	2
		いちご	35.7	福岡	12.0	2
		アスパラガス	29.9	佐賀	9.6	2
		トマト	28.8	熊本	18.9	1
		すいか	27.0	熊本	21.8	1
		きゅうり	24.1	宮崎	13.4	1
		なす	22.8	熊本	11.5	2
果実	14.8	なつみかん	67.3	鹿児島	36.7	1
		不知火（デコポン）	65.3	熊本	42.0	1
		マンゴー	64.0	宮崎	53.3	1
		びわ	52.9	長崎	35.3	1
		みかん	33.8	熊本	9.8	4
工芸農作物	32.0	葉たばこ	47.2	熊本	17.6	1
		茶（生葉）	44.6	鹿児島	31.2	1
		さとうきび	41.6	鹿児島	41.6	2
畜産	25.7	ブロイラー	48.5	鹿児島	19.8	1
		肉用牛	41.7	鹿児島	17.1	1
		豚	30.5	鹿児島	13.8	1

資料：農林水産省「令和元年生産農業所得統計」

九州産青果物の地域別出荷割合



資料：農林水産省「令和元年青果物卸売市場調査」

構造 － 農業産出額 －

【農業産出額は２年連続減少】

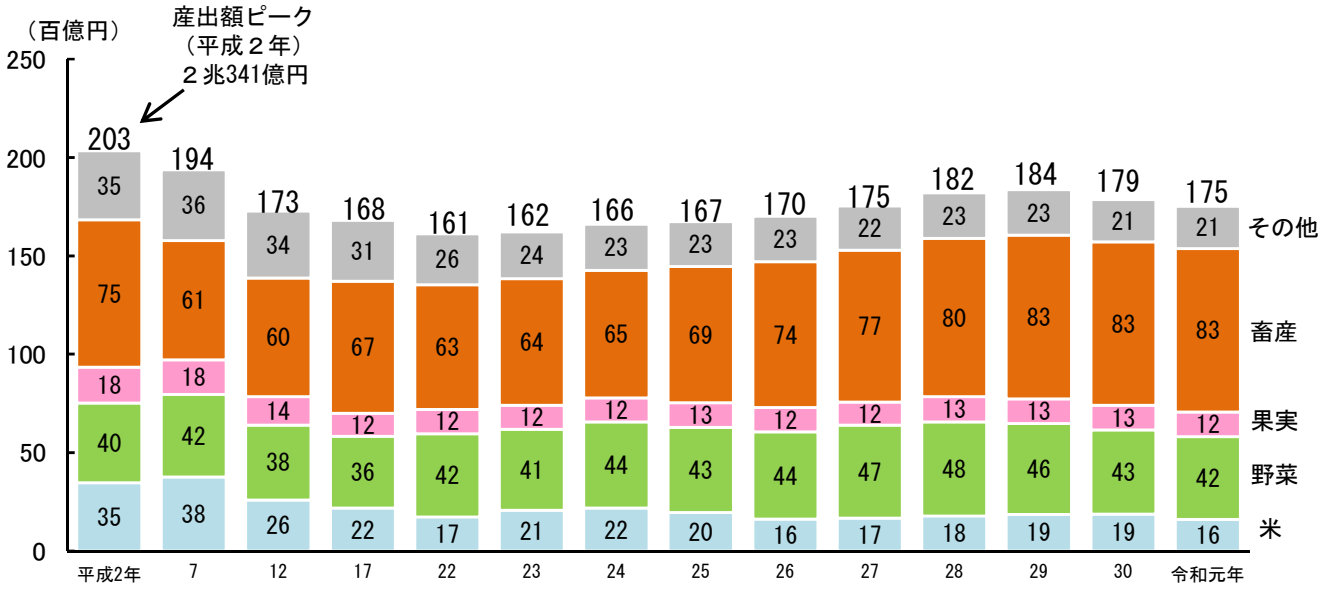
令和元（2019）年の九州の農業産出額は１兆7,520億円で、主に水稲の不作による生産量の減少、野菜の価格が低下したこと等により昨年に引き続き減少しています。

部門別にみると、全国に比べて米の割合が低く（全国19.6%、九州9.2%）、畜産の割合が高くなっています（全国36.1%、九州47.5%）。

このほか、温暖な気候を活かし、野菜や果実の生産など多様な農業が展開されています。

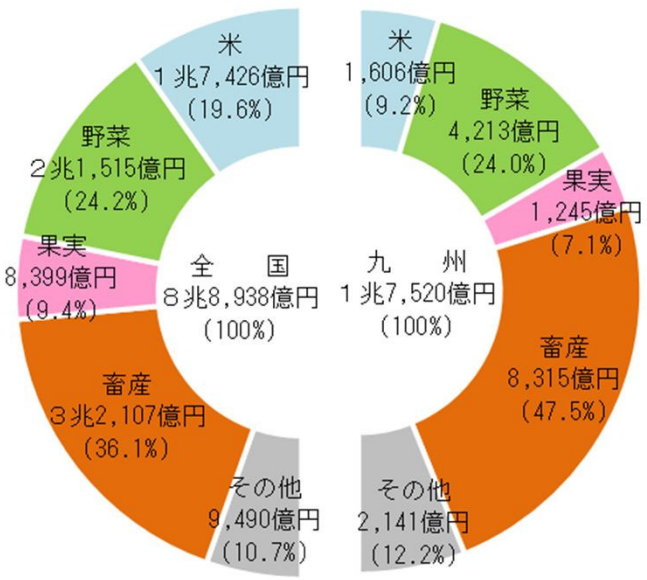
また、昭和40(1965)年の産出額と比較してみると九州の伸びは全国を大きく上回っており、特に野菜や畜産が大きく伸びています。

九州の農業産出額の推移



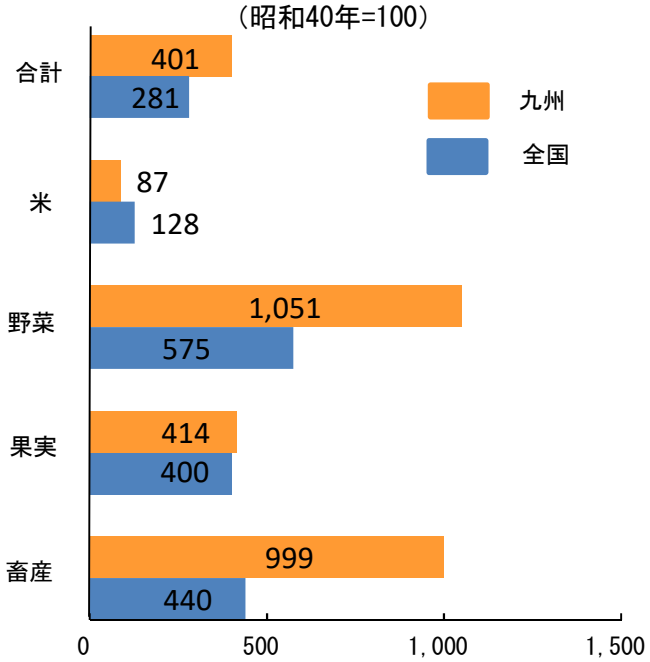
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

農業産出額部門別割合（令和元(2019)年）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

農業産出額の令和元年と昭和40年の対比
（昭和40年=100）



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

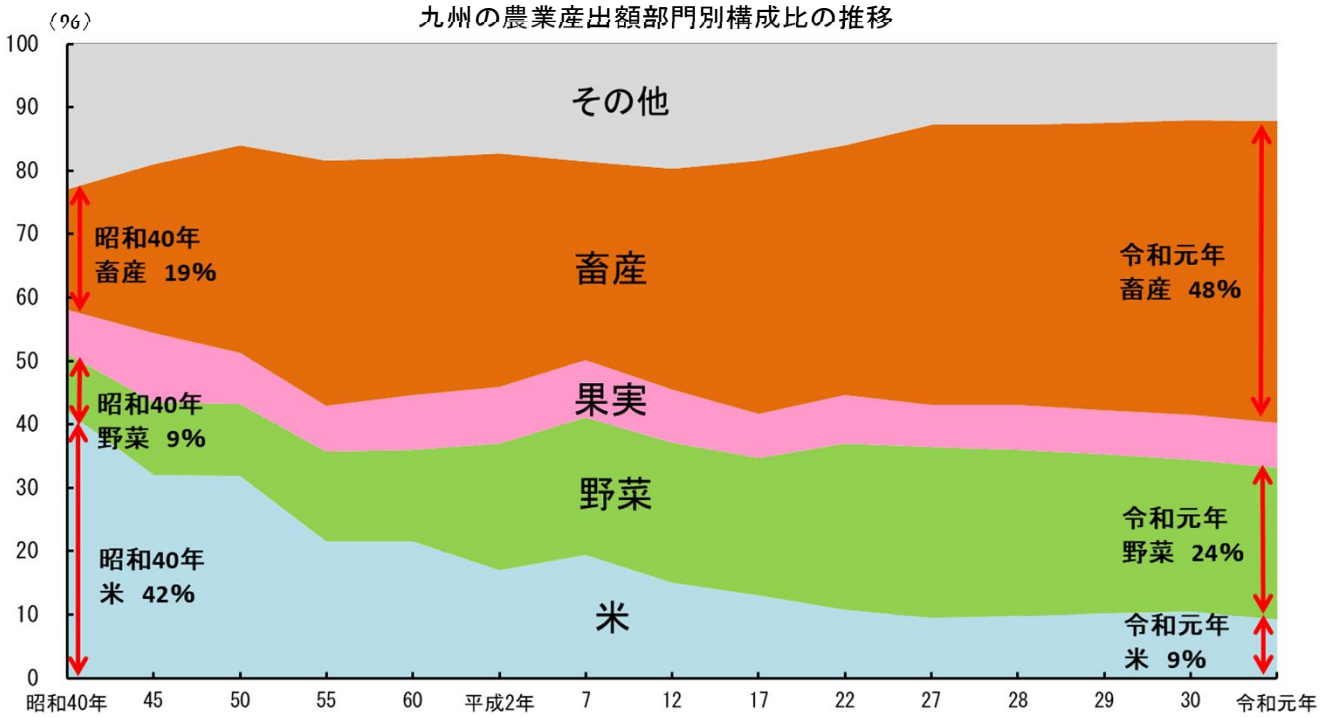
【畜産や野菜が増加】

九州の農業産出額を部門別の構成比でみると、昭和40（1965）年は19%だった畜産が令和元（2019）年には48%へと、野菜は９%から24%へと大幅に増加しました。

一方、米は42%から９%へと大幅に減少し、米を中心とした農業から野菜、畜産を中心とする農業へと推移しています。

その結果、農業産出額の全国上位10県に畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島、宮崎、熊本の３県がランクインしています。

九州の農業産出額部門別構成比の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

農業産出額全国上位10県の推移

単位：億円

	昭和40（1965）年		平成２（1990）年		令和元（2019）年	
１位	北海道	2,033	北海道	11,175	北海道	12,558
２位	茨城	1,330	茨城	5,192	鹿児島	4,890
３位	新潟	1,274	千葉	4,838	茨城	4,302
４位	千葉	1,195	鹿児島	4,510	千葉	3,859
５位	福島	1,063	熊本	4,016	宮崎	3,396
６位	静岡	983	新潟	3,933	熊本	3,364
７位	埼玉	966	福島	3,747	青森	3,138
８位	長野	954	宮崎	3,745	愛知	2,949
９位	愛知	886	愛知	3,640	栃木	2,859
10位	宮城	886	岩手	3,478	岩手	2,676

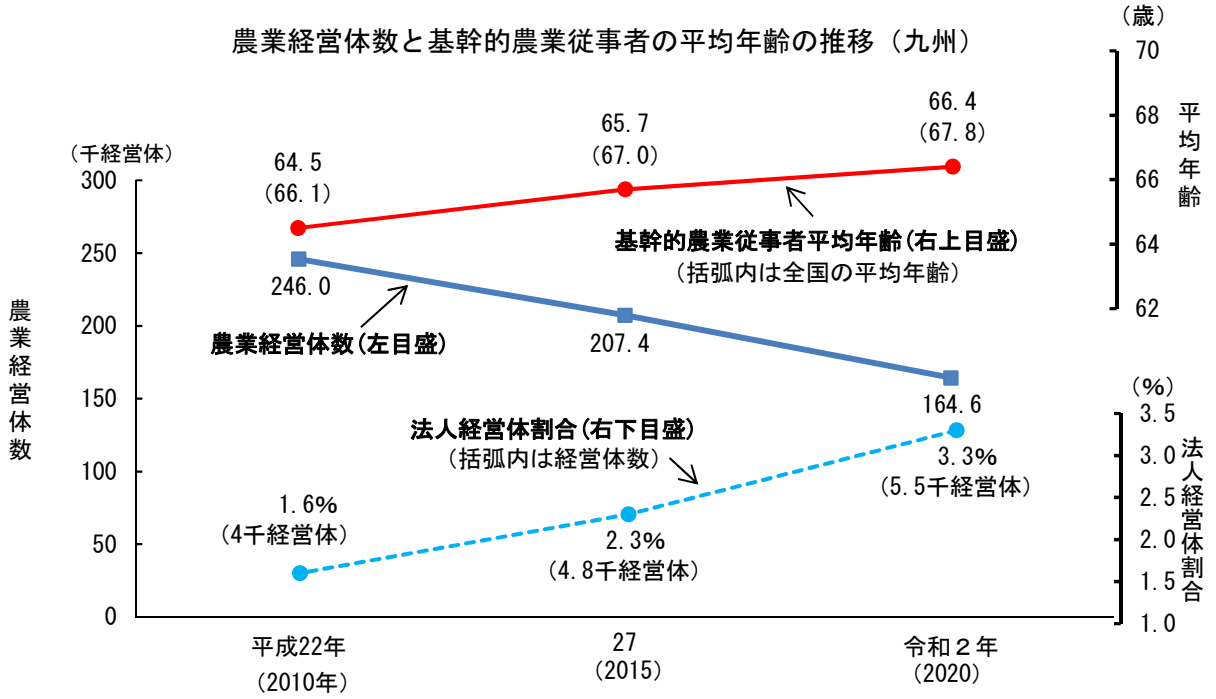
資料：農林水産省「生産農業所得統計」

構造 － 農業経営体 －

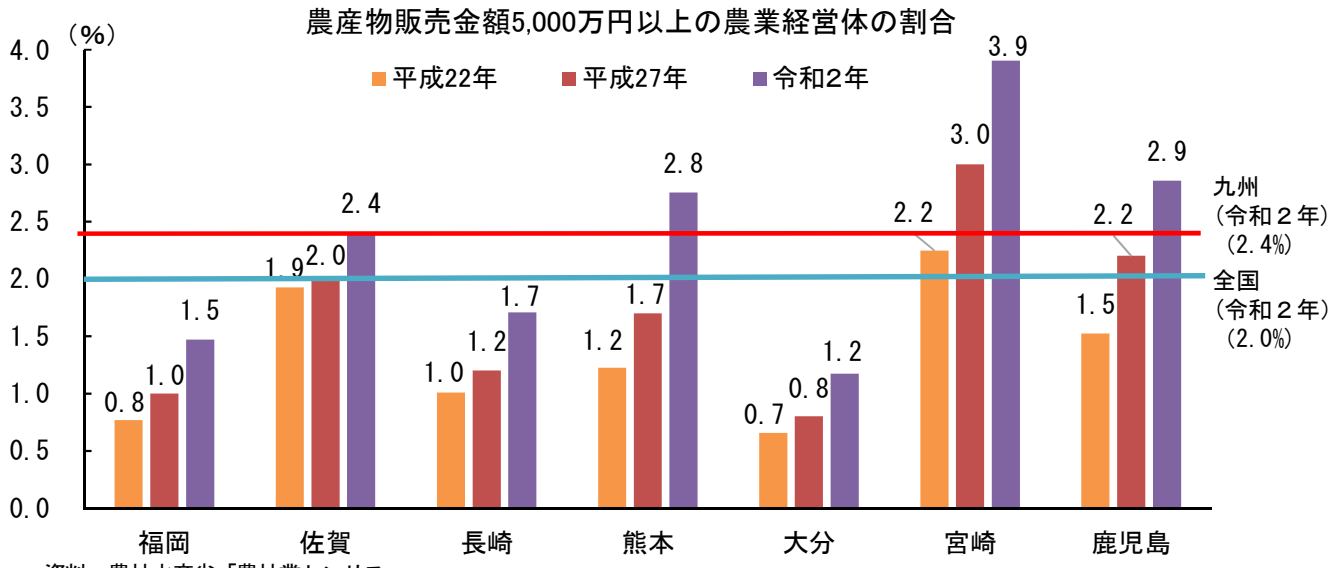
【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

九州における基幹的農業従事者の平均年齢は全国に比べ1.4歳若くなっていますが、平均年齢は66歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は10年前に比べると約70％となっていますが、法人化している経営体は1.5千経営体（38％）増加しています。

また、九州各県では農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合が増加しており、佐賀県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県が全国平均を上回っています。



資料：農林水産省「農林業センサス」
注１：基幹的農業従事者とは、自営農業に主として従事した世帯員のうち、普段の主な状態が「主に自営農業に従事」である者で、主に家事や育児を行う主婦や学生等は含まない。
注２：基幹的農業従事者平均年齢は平成27年、令和２年が個人経営体の数値、平成22年が販売農家の数値。
注３：農業経営体とは、経営耕地面積が30ａ以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。うち個人（世帯）で事業を行う経営体（法人を除く）を個人経営体という。
注４：法人経営体とは、農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。
注５：法人経営体割合＝法人経営体数／農業経営体数



資料：農林水産省「農林業センサス」

構造 － 耕地面積 －

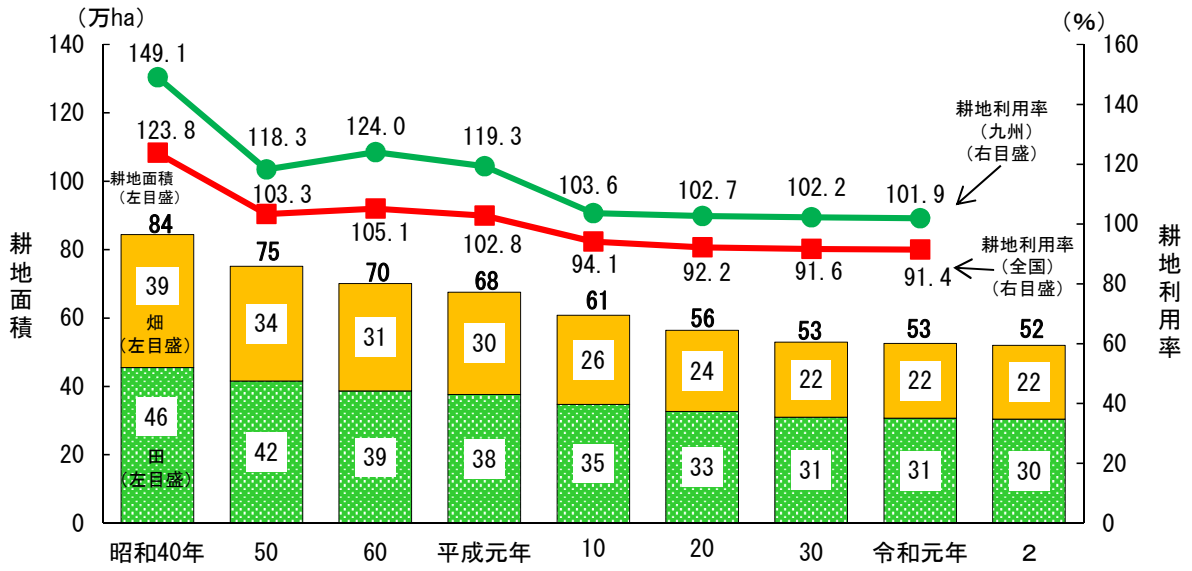
【耕地面積は52万400ha、耕地利用率は101.9%】

九州の耕地面積は、全国（437万ha）の約１割を占めています。

担い手の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路への転用等の理由により、平成元（1989）年から16万ha減少していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、減少幅は緩やかになってきています。

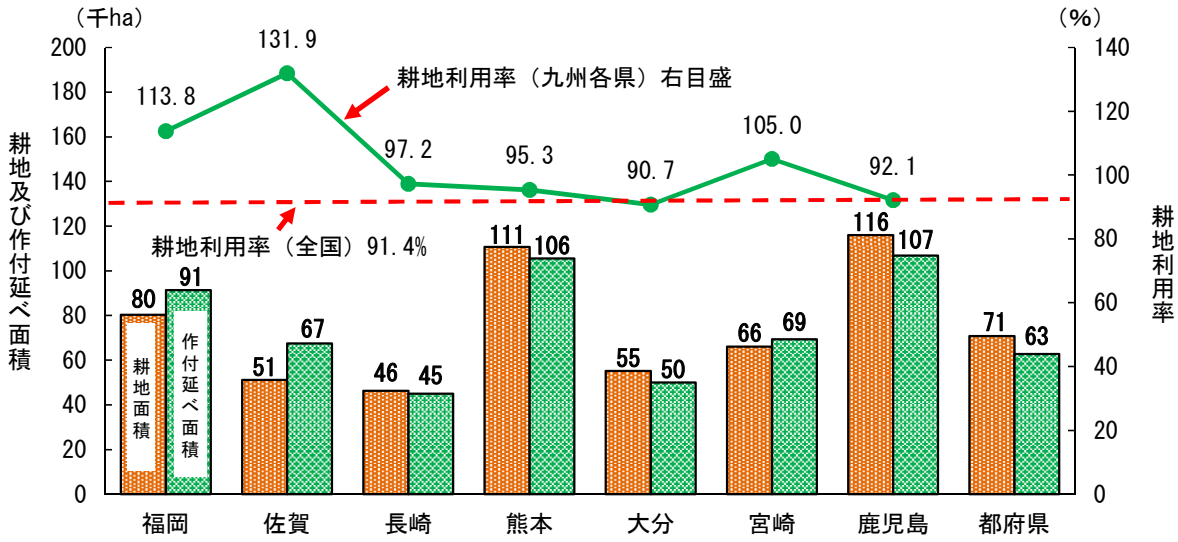
耕地利用率は全国平均91.4%を上回る101.9%となっています。特に、福岡県、佐賀県では水田を活用した裏作（麦）が行われ、宮崎県では飼料作物の年間複数回における作付けが盛んであることから100%を大きく上回っています。

耕地面積と耕地利用率の推移（九州）



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

耕地及び作付延べ面積と耕地利用率（令和元年(2019)年）



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

注：都府県は１県当たりの平均値です。